

吉田 支部 三十二名

これを関係四ヶ村の自作兼小作農 小作農の数に比較するなりは、僅かその一五多にも足りぬ。

(四) 組織関係

関係小作人は全部全国農民組合員にして昭和四年乃至昭和五年に組織されたりも、現在では前記六支部と野口支部とで全国農民組合和歌山縣聯合会曰高地区協議会を組織してゐる。曰高地区協議会の現勢を示せば尤の通りである。

組合員総数 二百四十六名

地区本部長 大島吉松氏

支部長 (吉田) 福居喜市氏 (小松原) 福島國松氏 (野口) 前田健次氏 (谷口) 前井庄次氏

(西富安) 中岡及三氏 (西内原) 前田健次氏 (谷口) 前井庄次氏

(野口) 太田孫吉氏 (婦人) 部長 松下カツ子氏) がある。

この外に青年部部長 福居愛太郎氏) 婦人部部長 松下カツ子氏) がある。

(五) 組合員の経済状態

上述の如く約半数は自作兼小作農であるがこれを支部別に云ふならば谷口支部は約八割までが自作兼小作農 吉田が約六割 他は組合員の過半数は純小作農である。一戸当り耕作面積は約八反 水田が主で畑地は殆ど無いと云つてよい。

(六) 社会的事情

曰高地区の特殊事情として小松支部の半数西内原支部の極一少部分を除く他は全部所謂「数部落」である。而かも今日まで全国水平社の支部が組織された事なく部落改善の諸設備の何等見るべきものがない。西富安支部の如きは児童の大半は不就学状態のまま放任されてゐる。衛生諸設備も亦極めて不完全であつて、結核炎、トラホーム患者は亦いただしい。その他嫁娶衰微に至るまで好しくなく幾多の風習も改善されぬまゝ、今日に

自然の諸條件に割合悪く、農業技術の智識に乏しいためか、経営粗放にして反当り水収入平均二百六十斗 裏作は六割、八割又は限外、稀に大麥を作る。最近志賀 西内原等に除虫菊 ケシの栽培を試みかたりの成果を収めてゐる。副業の見るべきものは無く、西内原 志賀 井ヶ養蚕を極く稀にやつてゐるが等々程の数字を掲げない。例外として西富安支部の大部分は土工、曰備野作者と農業との兼業の如き状態にある。小作条件は大劣悪であつて、西内原支部の如きは反当り小作料平均三十石 他は平均一石六十斗強である。如何に小作人の経済状態が劣悪であるかは以上の点だけでも計り知られるだらう。